



馬

平
九十日史
伊都岐奉

天壤無窮の神勅

アシハラノチイホアキノミツホノクニハ
葦原千五百秋之瑞穂國
コレアガウミノコノキミタル
是吾子孫可王

ベキクニナリ
之地也
ヨロシクイマシスメミマニキテシラセ
宜爾皇孫就而治焉
サキクマセ
行矣

アマツヒツギノサカエマサムコト
寶祚之隆
マサニアメツチトキハマリナカルベシ
當與天壤無窮者矣

同床共殿の神勅

アガミコノタカラノカガミヲミマサムコト
吾兒視此寶鏡
マサニアレワミルガゴトクスベシ
當猶視吾
トモニミニカヲオナシクシマアラ
可與同床

カラヒトツニシテ
共殿
モテイハヒノカガミトスベシ
以為齋鏡

神鏡奉齋の神勅

コレノカガミハ
此之鏡者
モハラアガミタマトシテ
專為我御魂而
アガミマヘツイツクガゴト
如拜吾前

イ
伊都岐奉

新春に思う

全国神社総代会会長

松下 幸之助



東京都神道青年会の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様の神社のご社頭は初詣での参拝の人びとで大層な賑わいであったことと思います。こうした新年の参拝をする人の数は年々増えてきているということですが、これはいわば日本人が日本人本来の心を取り戻してきた姿のあらわれであり、まことに喜ばしいことだと思います。

昨今の日本は政治、経済、その他社会の各方面にわたって、非常な混乱の様相を呈しておりますが、そのよってきたるところは個々にはいろいろありましようが、何よりも終戦この方お互い日本人が、自分を見失い、自己没却に陥ったところに一番大きな原因があると思われます。個人として自分を知り、自己の主体性を保つことができわめて大切なごとく、やはり国家国民としても適正な自己認識を欠いては、真の繁栄、発展はあり得ないと申せましよう。

そういうものを見失ったところに、今日の混乱があるのであり、したがっていまお互い日本人として一番大切なのは、自分というものをしっかりつかむことだと思

ます。特に日本は建国以来二千年近くにわたって隆々発展してきたという、世界にも例の少ない歴史を持っており、その歴史と特有の気候風土の中で培われたすぐれた伝統の精神があります。その伝統の精神を改めて認識し、それを今日の新しい時代に生かしていくことがきわめて大事だと思います。

その意味において、日本の伝統精神の中心ともいふべき神道の若きにはない手である皆様の今後に果たすべき役割はまことに重かつ大なるものがあります。いわば、祖国日本の精神復興、そして新たな発展への先達とも申せましよう。

この新春にあたり、そうした尊い使命を改めて自覚され、手をたずさえつつ、一層のご活躍、ご発展をされますことをお祈り申し上げる次第です。

年頭所感

会長 中田昌之



っかり土着した神社のあり方を考
えていくべきである。

さらに、円高と経済不況の吹き
荒れる情勢の中で人心の荒廃はま
すます現れ、ハイジャック事件・
暴走族等暴力事件が相次いで国内
不安を煽っている世相を省みると
き、今こそ我々は青年神職として
の自覚に立って互に手を相携えて
国民精神昂揚運動を推進し、日本
民族精神と伝統文化を守るべく決
意を新たにしなければならぬ。

本会の活動の柱である氏子青少
年教化活動もそういった観点から
氏子青年会の組織作りを重点目標
として取り組んできたが、都氏青
協も一昨年、神社庁より外郭団体
として認定され、昨年七月には創
立十周年大会を開催し、若人の意
気と情熱とを明治神宮の森にこだ
まさせた。又、傘下単位会も二十

五会を数えるに至り今後ますます
の発展が期待される。今後都氏青
協が更に飛躍をはかる為に組織
面・運営面において一考を要する

時期にさしかゝってきているとい
えよう。その点について今後神社
庁執行部又教化委員会・青少年対
策委員会とも充分に協議し、より
よい施策を考えなければならぬ
と思う。

本年は既報のとおり、関東地区
神青協総会”の当番にあたり、本
年五月十九日、日枝神社に於て開
催することが先般の委員会で決定
された。又、八月には神青協の三
十周年事業の一環として北方領土
早期復帰キャンペーンが実施され
る予定になっている。詳細は未定
であるが車によってキャンペーン
活動を行い、更に根室において研
修会を行って我々の意識の昂揚を
はかると共に、この運動の全国的
な盛り上がり計るものである。
これは本会に於ても従前からの継
続事業の一つであり、今後渉外部
を中心に計画を練り、積極的に参
加しなければならぬ。

我々は常に自己練習をくり返し
研修向上に努め、目的に向って行
動を起す事により更に青年神職と
しての誇りと自信とを昂めていく
べきである。

年頭にあたり、会員諸賢の充分
なる御活躍を祈念申し上げる。

謹賀新年

東京都神道青年会

会長 中田昌之

副会長 川合玄紘 山内 温

議長 日暮英司

監事 大鳥居信史 清水司

総務部 蔵重命史

小泉朋昭 守谷幸夫

山崎 寛 香取邦彦

植栗照之 安藤勝美

八木敏夫 松林健一

村岡賢治 秋永勝彦

荻原俊紹 小俣宗昭

矢島輝一

渡辺和寿 柳原正三

宮川憲一 三笠光敏

中田憲文 北川憲史

菊池健二郎 早山彰

能円坊明彦

浜中厚生 中村善隆

伊藤孝夫 内田英雄

小野貴嗣

大村 忠 中神 孝

大野弘道 三木一能

斉藤瑞雄 押見守康

木村雄一 阿部明德

倉光賢一 宮廻勇丸

長岡式部 松宮兼房

千村義和 山口直和

国旗掲揚推進運動

教化部 千村義和

国旗掲揚推進運動は神道青年会に課せられた大きなテーマである。いや、神社界全体がもっともっと真剣に取り組まなければならぬ。この運動は今に始まったことではなく、何時でも大きなテーマとして、諸先輩が取り組んだことでしよう。ところが現実には全くと言って良いほど成果は上っていません。むしろ国旗は軽視され、ますます祝日に国旗を掲げる家は少なくなっています。

国旗について、日の丸について国民大衆はどのように思っているのでしょうか。新聞社の世論調査などの結果を見ると、まず好意的な結果が出ます。日の丸に対して偏見を持っている人、国旗を排除しようとする人は、間違いなく少数です。青年会教化部でも現場に出て生の声を聞こうとアンケート調査を推進中です。昨年三月十三日明治神宮に於いて、東京都氏子青年協議会の会員も加わっていただき、第一回の調査を実施した

しました。私も勇気をふるって、参道を行く人にまた駐車場に乗りつけた人に、意見を聞きました。明治神宮という場所もあるでしょうが、ほとんどの人が好意的な意見でした。

世界のどこの国を見ても国旗を軽視している国はありません。国旗はまさに国のシンボルであり、国の誇りであると思います。なぜ日本だけがこれほど国旗を軽視して、これほど掲げる機会を失いたた排斥運動がまかり通っているのでしょうか。

いつか読んだ新聞を思い出します。国旗にしても国歌にしてもさらには元号問題にしても、世論調査をすれば必ず圧倒的な多数で「よし」という結果が出るであろう。しかしこの種の問題は言わゆる多数決の原理で押し切るものではなく、国民のコンセンサスが統一されたかをどこまでも見極める必要がある。日の丸の旗のもとに行われたあの戦争の悲惨さを決して忘

れてはいけません。このようなものを読むと腹が立ってくる。国旗、国歌、元号はすぐに戦争に結びついていく。それが私には納得いかない。確かに戦争の悲惨さは、戦後生まれの私にも充分に承知している。しかし再び「日の丸・君が代」を持って、戦争をしようという国民はどこにいますでしょうか。それこそ国民のコンセンサスは統一されている。

私達ももっと自信を持って強力に国旗推進運動に取り組むべきです。一つは日の丸は日本の誇るべき国旗なのだということを、大衆の中から掘り起すこと。二つは国旗を掲揚するべく、具体的な運動をすることだと思います。国旗に偏見を持っている人、それは一部にすぎない。極左翼勢力（無視すべきほどの少数だが）以外には全くつじつまの合わない考えで、国旗の排斥を唱えています。「国旗のもとに日本民族が結束する」との言葉自体に戦争を見てしまう。やれ右翼だファッショだと言つ。ソ連にしろ中国にしろ、民族の結束は大変なものです。そういう国体を礼賛して、なぜ日本民族の結束がファッショなのだろう。戦争

という幻影にとらわれているにすぎないと思う。大部分の人は国旗、日の丸、そこに日本人としての誇りを感じています。そしてその大衆に具体的に訴える。日の丸ステッカーにしても、神社界組織に頼って頒布するのではなく、もっと大きな媒体を利用すべきではないでしょうか。大げさに言えば国民のすべてに渡すぐらいの覚悟が必要と思う。

教化部では本年三月の日曜日、国旗掲揚推進の自動車パレードを行う。部長の渡辺和寿さんを始めとして、教化部員はその準備を進めています。これなども従来のパレードをもっと発展させて、盛り場では自動車から降りて道行く人すべてにステッカー・パンフレットなどを配布するか、あるいは風船などを配布することも一考のようには思います。青年会会員は勿論のこと、神社界の一人でも多くの人に参加され、大きなパレードを組織して運動を盛り上げたいと思います。皆様の御協力をお願い致します。

「この一年を顧りみて」

事業部 大村 忠

組織の充実と円滑を期する為には会員相互の親睦を計ることにあ
ると思う。今期活動方針の中で「人
の和なくして……」に基き一人
も多く参加者が集う事を乞願
て来ました。部員の協力のもとに
各事業計画を推進して来ましたが、
その間実施に当って認識不足と未
熟な為お手数をかけ御迷惑を
かけましたことをお詫び申し上げ
御指導下さいました諸先輩を
始め会員の皆様にお礼申し上げます。
各事業内容をご報告したいと存
じます。

「パウロ小唄」は東京ボイズもび
くり、これからはアイドルとして
いつも御指名がかかるのではない
か……。

一、新年会

恒例の新年会は神田明神会館で
一月十二日催され神社庁より庁長
はじめ役員諸氏などを多数迎え先
輩、会員百余名が出席した。講演
は前西ドイツ大使の曾野明氏によ
る「日本は狙われている」があり、
その後祝宴に入り落語林家笑三
師匠の紙切り、東京ボイズによる
歌謡漫談の演芸と余興があり賑や
かに行なわれた。特に香取君の「ラ

二、ボーリング大会

三月二十二日後楽園ボーリング
場に於いて開催二十四名参加熱戦
を展開した。ボーリングも下火に
なったとは言え家族ぐるみで交際
出来るのがこの大会、老いも若き
も上手も下手も一堂に会して睦ま
じくすごせる催しです。ストライ
クを出す心がスカットしますよ。
「いちどいらっしやい」

三、懇親旅行

六月十三日箱根湯本「水明荘」
二十名出席、十一月二十八日湯本
「ホテル岡田」十九名出席、旅行
は風呂に入ってお互い「肌と肌」
のつきあい、言えないことも言え
るしほんとうの意味での親睦が深
まります。参加したことのない人
も一度は出席して見て交流を深め
るならばそこで得るものは大とな
りましょう。



懇親ドライブ

四、納涼の夕べ

「ほたる観賞の夕べ」と題して
七月三日椿山荘に於いて開催、家
族友人と共に会員多数が出席（五
十一名）近來にない盛況でした。
ある会員が、このような催しなら
どんどんやってくれといつでも参
加出来る、担当者としては非常
にうれしい言葉を頂きました。バイ
キングの後、庭園でなつかしの源
氏ポタルが目の前をスイスイ飛ん
で久しぶりに子供の頃の思い出を
お興している人達でいっぱいでした。

五、懇親ドライブ

九月二十九日東神ドライブクラ

ブとの協賛の懇親ドライブも本年
は甲府昇仙峡グリーンランドに決
まり会員一同車十台を連ね交通安
全を祈りながら小雨の中昇仙峡に
向って出発、夫婦木宮（特殊民間
信仰）金桜神社参拝のちグリーンラ
ンドに於て昼食、その後老若男女
フィールドアスレチックを楽しん
だ。得点ではすべての方が体力以
上のものを出し自画自賛、又罫釣
を楽しみ一人で一時間に十二匹も
獲る「太公望」もいました。

以上の如く何は共あれこの一年
間無我夢中で過して参りました。
ふり返ってみますと反省すること
が多いのですが、親睦活動として
の懇親行事は青年会の和を保って
いく上で欠かせないものであり、そ
の意味するところに非常に大事な
要素が含まれていると思う。家族
友人と共に親睦を密に図り互に手
を取り合って自己の研鑽と心のゆ
とり、さらには本当の意味での友
情に、又会員相互の信頼と会の和
の充実に少しでも役立ちたいと思
っています。これから諸先輩を
始め会員諸兄の惜みない御指導と
御鞭撻を賜わると共により多くの
参加者が得られる事業にして行き
たいと思います。

氏子青年紹介 (その七)

多摩川浅間神社 氏子青年会



る。

行事としては毎月理事会を開催し、毎月一回の朝詣会、一月の元旦祭奉仕、例大祭奉仕など毎月行事を行っている。また会員同志地元地域の認識を深めるため、文献研修会を開催している。神社参道の舗装工事では、皆で力を出し合い、神社の発展、会員の親睦を深めている。

堀切天祖神社 氏子青年会

(所在) 葛飾区堀切三十一―二
(会長) 石井 竹雄
(会員) 四百三十名
(結成) 昭和五十一年四月八日

本会は例大祭の大神輿渡御の奉仕を主たる目的とし神社崇敬団体である睦を母体として結成されたが、その後神社の年間諸祭事に対応して活動をする恒常的な組織として運営されている。年一回の総会には予算及び年間事業計画を審議、会長の下に副会長二名、幹



事二十五名をおき、以上三十名で幹事会を組織して具体的な方針を決定、財政は会員の会費を中心としている。因に本年度は初詣参拝者の甘酒接待をはじめ大祭神輿渡御の奉仕は勿論のこと、社報の発行、映画会等の教化活動、神輿の修繕等の奉仕を勤めて来た。今後共増々神職、総代とも連絡を密にし神社婦人会とも協力して、氏神の教化活動を通じ、地域社会の発展に若者らしい貢献をしていく所存である。

石川神社 氏子青年会

(所在) 大田区石川町二丁目十一
(会長) 鈴木春吉 (会員) 約五十名
(結成) 昭和五十年十月

一町会一神社のため、会員相互の親睦は深く、氏神様を中心とする活動は大きな成果を上げている。特に除夜祭では参拝者に甘酒を接待しており、社頭が青年会の活動によって賑わうようになった。

地域社会への奉仕、おまつりへの参加と、青年としての活動を大に行い、将来の事業として町会とタイアップした運動会を計画している。



青年会と云う場を通じて

長岡式部

明けましておめでとうございませす。

今年は午年なれば躍進の年、皆様方の御社頭でもさぞかし賑わった事で御座いましょう。しかしこの賑わいも氏子数から見た場合、もつと賑わっても良い事ではないかと思われる神社も有る事だと想像致します。どうしてだろうと考え悩む。しかし悩みはまだまだ他にもいろいろと、各神社又、我々若い神職として山程あるに違いないと思う。又思いながら社務に励げんでいるのが現状ではないだろうか。

「人間考える葦である」と云う有名な言葉があるが、何も考えなければ現状よりさらに低下してしまふであらう。したがって悩み、苦しみをいかに解消し前進して行くかである。

昔より「一本の矢より二本の矢」と云うように、青年会の会員の皆さん大いに活し、語ろうではありませんか、そうすれば迷道も以外に早く道が開けて行くものだと思う。宝の持ちぐされは非常に損である。会員の皆さんとどん集ま

っている話し合おうではないか。私達神職には神の道は大変むずかしく、底無し沼のごとく、奥の深いものである為、青年会という場を通じて勉強し、躍進して行くのではないか。そして我々の青年会にしていきませんか。



お知らせ

渉外部 浜中厚生

昭和五十三年の初春を心よりお喜び申し上げます。

会員の皆様には平素より御協力を載き感謝致しますとともに、本年も宜敷くお願い申し上げます。

さて、会員の皆様には本会も含めた神道青年会の全国組織「神道青年全国協議会」―神青協、会長北川正保氏―をすでにご存じのことと思ひますが、神青協関係の今後の事業予定、計画等をお知らせ申し上げます。

一、靖国神社国家護持問題 「英霊にこたえる会」の活動に協力し、国民一般の理解、賛同を得て、国会における法案成立を目差している。

二、建国記念の日奉祝パレード 例年通りの予定にて執行

三、中央研修会、三月十、十一日 熱田神宮にて、中央研修所との共催で開催されます。

四、殉国沖繩学徒顕彰慰霊祭、六月二十三日「沖繩慰霊の日」に靖国神社にて斉行

五、北方領土問題。北方領土の早期返還をめざし全国的に、又、

神青協独自に活動を行っていただきます。特に本年八月十日現地研修会を、神青協創立三十周年記念事業の一環として開催する予定。神青協の各ブロック単位毎に自動車宣伝隊を編成し、各地を啓蒙しつつ現地に集合し、研修を行なおうというものです。

一、神青協創立三十周年記念大会 来年は神青協創立三十年となり、記念大会を開催する予定。すでに昨年より実行委員会を設け、案を練り、準備を進めております。

以上が神青協中央に関する行事です。

次に、関東地区（一都七県）総会が五月十九日東京日枝神社にて開催されます。本年は都神青会が当番に当たっており、総会の準備に付きましては、本会内に実行委員会等を設け進めて行きたいと考えております。

会員の皆様には公私共に御多忙とは存じますが、斯界のため御支援、御協力の程、切にお願い申し上げます。

活動報告

- 八月六日 全国氏子青年協議会第十五回定期大会出席。(於・静岡富士宮市公民館)
- 九月三日 氏青十周年記念大会実行委員会解散式。(於日枝神社)
- 九月十七日 「日本を創る青年会議」出席。(於日経ホール)
- 九月二十九日 懇親ドライブ・東神ドライブクラブと共催。(甲府昇仙峡方面)
- 十月一日 会報「やくわえ」第十八号発行。
- 十月五日 神宮大麻・曆頒布始奉告祭に奉仕。(於神社庁)
- 十月十三日 「最高裁判決・地鎮祭問題報告中央大会」手伝い(於明治神宮会館)
- 十月十六日 神青野球部・北多摩野球部ナイターで練習試合。(於府中市営グラウンド)
- 十月二十日 「東京都神社総代会大会」手伝い。(於大國魂神社参集殿)
- 十一月十一日 スクリーン印刷講習会。(於神社庁)
- 十一月十二日 東京都神社庁外郭

団体担当者会議出席。(於日枝神社)

十一月二十一、二十二日 神青野球部懇親旅行。(於熱海・新かど)

十一月二十八、二十九日 懇親旅行。(於箱根湯本・ホテル岡田)

十二月十一日 府中刑務所大拔式奉仕。(於府中刑務所)

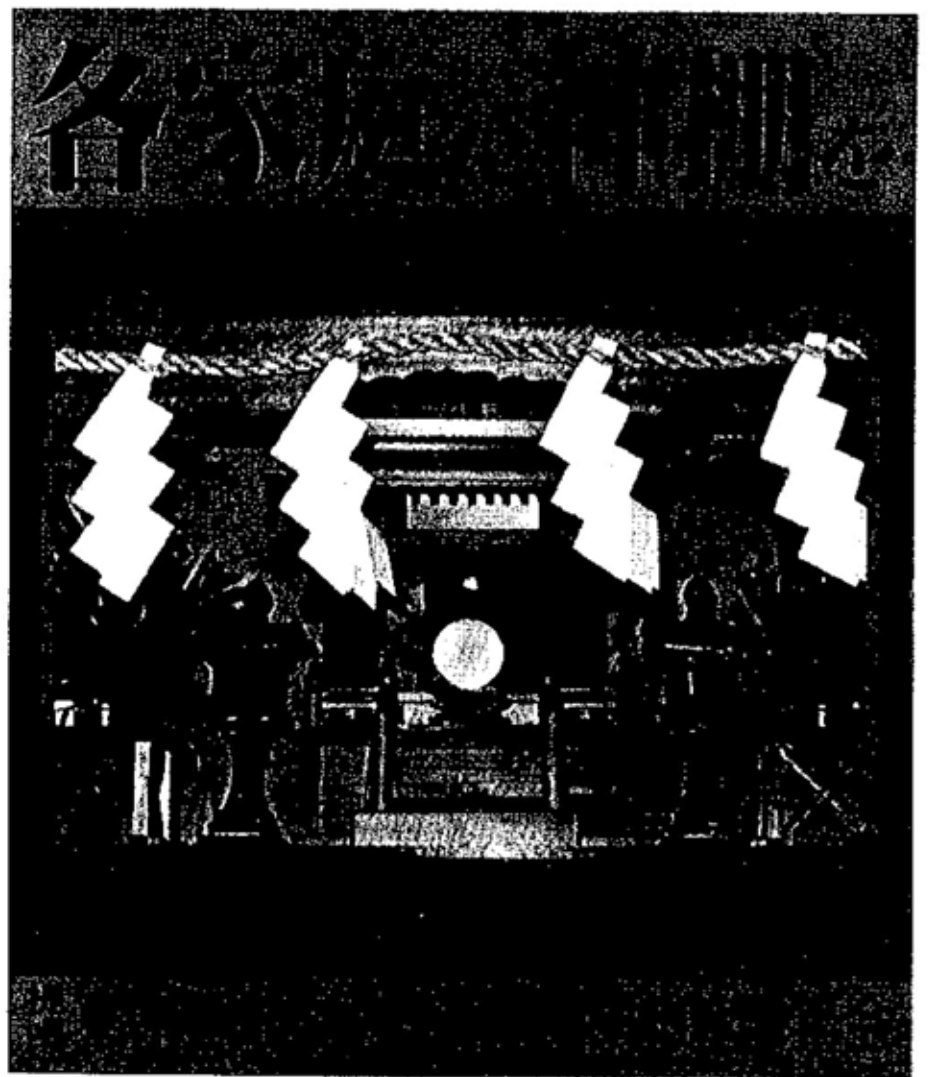
十二月十三日 氏青忘年会。(於日枝神社)

十二月十六日 相談役と役員・委員との懇親会。(於大宮八幡宮清涼殿)

編集後記

昭和五十三年の新しい年を迎え、会員諸兄皆様におかれましては御健勝の事と拝察致します。

今年馬年で、馬偏に属する文字は五百を越えると云われており、昔より人と馬とのつながりは切っても切れない縁があります。「延喜式」には、日照りが続いた時には、雨祈りのために黒い馬を、納め又、雨が多く降りつづいた時



○核家化する昨今神棚を奉る家が少なくなり、この度教化部では、神棚奉斎推進運動の一環とし、各家庭に神棚を」というポスターを作成し、各社にお配り致しました。

には白い馬を献上したとあります。天馬空を行く」の如く今年はスカッと暗き世相を吹きとばし、会、益々の発展を期します。新年号発行にあたり皆々様の御協力心より御礼申し上げます。

(倉光)

昭和五十三年一月一日
東京都神道青年会
東京都港区元赤坂二―二―三
東京都神社庁内
電話(408)二三六一・九二七七